

2 社 会 科

大脊戸 若 光・吉 浦 公 子

1. 個が生きる社会科授業の条件

次の5つの観点から、授業づくりを考えている。

(1) 一人一人の学習を成立させる

授業の中で、個が生きるとは、どの児童についてもその子なりの学習が成立することである。学習の成立とは、児童一人一人の学習活動が主体的に成っていることである。児童の主体性は、児童が自ら学習を求めることにより成立する。そのような学習活動は、教師が問い、児童が答えるという授業形態からは生れない。児童自らが問いそして求めるという学習において、児童個々が生き生きと学び合い高め合う。

そのような社会科の授業づくりの方途として、体験的な学習や問題解決的な学習を考えている。

(2) 児童の反応の多様性を組織する

教師の発問や課題に対して、児童の反応や取り組みは、多様で個性的である。そして教師の期待や意図とはちがった反応を示す児童も多くいる。しかし、児童一人一人はそれなりに反応して、学習に取り組もうとしているのである。したがって、教師の教えることが先立ったり教師の準備した意図に沿わない反応を見過したりすれば、児童個々の学習の成立を阻むことになる。個が生きる授業づくりに求められるのは、これらの多様な反応を集団としての学習の中に位置づけたり意義づけたりする授業の組織力である。

(3) 一人一人の学習の質的・時間的差異を配慮する

児童個々の学習が成立するまでには、個人によって差異があることも授業づくりにおいて考慮することが大切である。刺激から反応まで、また、一つの作業が終るまでなど、児童によって時間的にも質的にも差異がある。これは当然のことであるが、学習過程において、このことへの十分な配慮がなされず、一部の児童のみの学習に陥ることもしばしばである。そこで、児童個々の学習意欲を育て、社会事象に対する好奇心のオリジナリティを生かすために、単元や単位時間の指導過程の中に「一人学習」の活動と「全員学習」の場を設定する。

(4) 学習は児童自身の活動であることを再認識する

学習のまとめをするのは、児童一人一人である。指導目標がどうであろうと、学び取ったことは、児童個々がとらえたこと以上でもないし以下でもない。限られた授業時数で、教材内容をものにさせることは難しいことである。(限定された時間と限定された場でどの児童にも同じ……との矛盾) 教師は、教材の到達目標をどの子にもわからせようと、学習をまとめようとすることがある。多人数が活動した学習は、簡単にまとめられるものではない。無理にまとめると、戸惑いを持つ児童が出てくる。

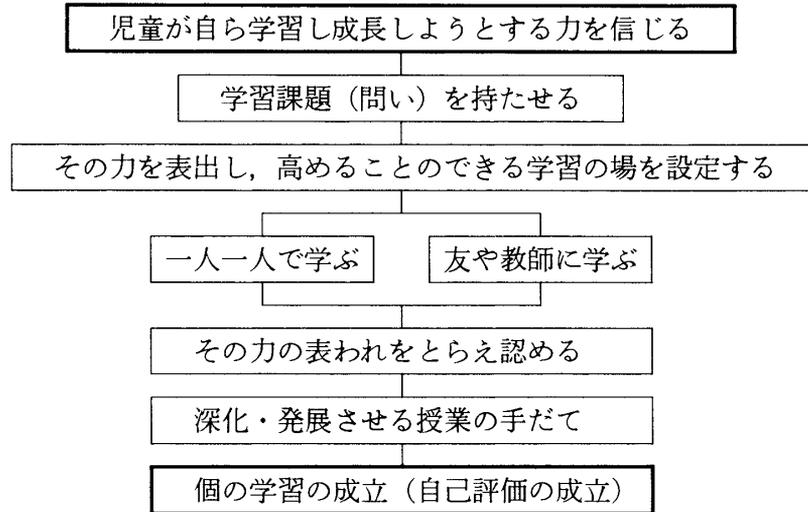
そこで、教材の到達目標を「児童個々はその学習にどう取り組んだか。」を知るための手がかりの目標として考える。目標を山の頂上とすると、全員が一様に登頂するわけではないのである。

(5) 学習は、児童自身の自己決定と自己評価の過程である

児童が自ら判断して、自己決定を行うことは、個々に学習を成立させるための条件である。「自己が高まる評価力」とは、学習活動の過程において、自己決定と自己評価を繰り返しながら、自分の考えを深め、広げることの出来る学習力と考える。

児童は自己の決定について、承認の欲求を持っている。授業は、各自の自己決定をどれだけとらえ、それらを組織し、深め高めるかによって評価される。

2. 自己評価力を高める基本的な授業構造



3. 自己評価力を育てる授業過程の構成要素

児 童	教 師
① 問いをもつ。 ・教材に対する思い（疑問、驚き、感動等）を持つ。 ・学習への興味、関心、必要感を持つ。 ・事象に対する追求意欲と見通しを持つ。	○ 系統性、発展性のある教材提示 疑問、驚き、感動、矛盾などを生む教材 ○ 問いの成立過程の把握 ○ 指導目標と問いの内容の関連の意義付け ○ 既習経験の想起と追求方法の助言
② 問い（課題）を解決しようとする。 ア. 教師に学ぶ。 ・学習方法を聞く、見る。 ・模倣する。 ・学習方法を知る。 イ. 一人で学ぶ。（一人学習） ・自分で調べる。 ・自分なりの考えを持つ。 ・調べたことや自分の考えを表現する。 ウ. 友達に学ぶ。（全員学習） ・友達と意見を交換する。 ・友達の考えを受容する。 ・自分の考えと比べる。 ・新たな考えを持つ。	○ 師範、教示する場の設定 ○ 多様で具体的な学習方法の提示 ○ 一人学習の場の設定 ○ 体験的な学習の重視 ○ 個別指導の徹底 ○ 自己決定や自己表現への援助 ○ 学習ルールの確立と学習形態の工夫 ○ 児童の多様性を組織する発問 ○ 多面的な児童理解 ○ 個の考えを生かす学習の展開 ○ 新たな学習展開への示唆
③ 学習をふりかえる。 ・問いに始まり、自分が学んだ道筋をふりかえる。 ・学習の経過をまとめる。 ・新たなめあてや意欲を持つ。	○ 自己評価への助言と励まし ○ つまづきや達成度の確認 ○ 指導計画の修正と改善 ○ 教師の自己評価